

第2回 船橋市立金杉台中学校の今後を考える会

【資料1】

平成30年7月12日

【資料1】

目 次

1. 考える会について	……1
(1) 船橋市立金杉台中学校の今後を考える会の位置づけについて	……1
(2) 第1回考える会でいただいたご意見について	……2
(3) 考える会のスケジュールについて	……3
(4) 考える会の取り組みの周知について	……4
(5) 御滝中学校評議員との意見交換の報告	……7
2. 小中一貫教育について	……8
3. 学区に関する具体的な方策の検討について	……9

1. 考える会について

(1) 船橋市立金杉台中学校の今後を考える会の位置づけについて

目的

全学年単学級の状況が継続すると予想される金杉台中学校の教育環境の充実のため、「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」に基づき、通学区域の変更・弾力化、統合等も視野に入れ、望ましい対応策について意見交換を行う。

組織

考える会の構成員は、金杉台中学校及び金杉台小学校の校長、両校の学校評議員及びPTA役員の代表者(学校評議員、PTA役員から各2～3人程度)、教育委員会事務局管理部長、教育総務課長、学務課長とする。

スケジュール

平成29年度末から平成30年度までに3回程度開催する。

会議運営

考える会での議論をもとに、事務局でテーマを提示し、意見交換を行う。会議の概要を「考える会ニュース」としてまとめ、公表する。

事務局

船橋市教育委員会教育総務課、学務課

(2) 第1回考える会でいただいたご意見について

金杉台中学校の教育環境の充実の観点から、いただいたご意見を、「現状維持」、「小中一貫校」、「学区の変更」、「統合」の4つの対応策に集約いたしました。また、その他のご意見について下記のとおり整理いたしました。

○現状維持

- ・小規模校の良さや少人数のメリットを感じて金杉台中に入る子もいる。
- ・学区を変更し、生徒が増えたら、逆に今の金杉台中の良さがなくなる。
- ・少人数を活かし、塾に頼らないなど前進的な教育内容に力を入れる。
- ・魅力ある部活動で生徒を増やす。(現状さらに部活を増やすのは無理がある。という意見もあり。)

○小中一貫校など魅力を高めて金杉台中を存続する

- ・小中一貫校等で学校の魅力を高めたらどうか。
- ・金杉台小学校に金杉台中学校を移して一体化する。
- ・義務教育制度(6・3制)のあり方の再考が必要。
- ・小中一貫教育、小中連携教育の市としての評価、モデル校としての可能性の有無は。

○学区による対応で金杉台中の生徒を増やす

- ・自由に選べるようにしてほしい。
- ・学区を固定して、増やしてほしい。
- ・金杉台中の選択学区を拡大できないか。
- ・選択学区をなくし、金杉台中の学区を固定してほしい。
- ・周辺で宅地が増えているので、新しい世帯は金杉台中の学区とすれば生徒が増えるのではないか。

○統合により、一定の規模の教育環境を確保する

- ・市の基本方針をもとに考えていくと、統合という方向性は理解できる。
- ・中学校はなくなってほしくないが、学級数が多いほうが友達もたくさんでき、子供たちにとって良いのではないか。
- ・金杉台中を希望する人もいるので、できることならば残してほしいが、予算などいろいろな理由で無理だということであれば統合もやむを得ない。

○その他

- ・学校には教職員・児童生徒がいるので、いざというときに避難所として役に立つ。
- ・統合となった場合、跡地をどうするのかについて、地域の実情に応じて検討してほしい。
- ・小規模校の良さを活かしながら存続させたいので、統合には反対。
- ・同じ金杉台小の児童で、中学校を選択できる地域と、できない地域があることに反対。
- ・一部の部活動では人数が少ないため、他の学校との練習や合同チームで試合に出ることがある。

(3) 考える会のスケジュールについて

日程	内容ほか
平成 30 年 2 月 9 日	第 1 回 金杉台中学校の今後を考える会 ◆現状及び今後について
7 月 12 日	第 2 回 金杉台中学校の今後を考える会 ◆第1回での意見に対する事務局からの提案・報告について （考える会の位置づけ、スケジュール及び取り組みの周知の提案、御滝中学校評議員との意見交換の報告） ◆小中一貫教育について ◆学区に関する具体的な方策の検討について
8 月下旬	第 3 回 金杉台中学校の今後を考える会 ◆一定規模の教育環境を確保するための方策の検討について ◆他市事例(札幌市視察)について ◆地域説明会の実施について
10 月頃	第 1 回 地域説明会 【対象】 金杉台小・中学校の保護者、金杉台中学校の学区内の地域住民 【内容】 金杉台中学校の現状、考える会の経緯並びに考える会で取り上げた内容について説明し、意見を聴取します。
<p>○考える会は上記3回としていますが、挙げられた意見に対し十分な意見交換ができるよう、必要に応じて回数を変更します。</p> <p>○地域説明会は、望ましい対応策について、幅広く保護者、地域の皆様との対話の機会を持つために、複数回実施します。</p>	

(4) 考える会の取り組みの周知について

考える会ニュースの発行について

目的

教育委員会は、適正規模化の対応策の検討をはじめめる必要があることから、「船橋市立金杉台中学校の今後を考える会」を開催し、学校関係者の代表と意見交換をする。この会は、学校関係者のうちの一部の代表との意見交換の場であることから、取り組み状況について、広く保護者、地域の方にも情報を共有するため、経過をその都度「ニュース」としてまとめ、周知を図る。意見等は事務局で受け、考える会に報告する。

発行方法

- ・考える会の終了後、1～2週間程度で事務局にて原稿案を作成する。
- ・出席者へ郵送し、1週間程度で校正を依頼する。
- ・印刷した考える会ニュースを、郵送等で配布依頼先へ送付。

配布先

- ・金杉台中学校、金杉台小学校の保護者に、学校を通じて考える会ニュースを配布する。
- ・金杉台中学校の学区の中心となる、金杉台団地及び二和グリーンハイツの自治会長に相談の上、地域の方へ回覧板等により周知する。(金杉台団地分譲自治会、金杉台団地自治会、船橋二和グリーンハイツ自治会、西二和グリーンハイツ船橋自治会)

ホームページへの掲載

- ・考える会ニュースを市ホームページに掲載する。

その他

- ・金杉台中学校の選択地域となっている地域の児童が通学する二和小学校、三咲小学校、金杉小学校及び高根小学校の保護者が、情報を得られるよう対応を検討する。該当小学校の校長と相談し、教育委員会又は学校からのお便りで、考える会ニュースのホームページ掲載について周知するなど今後対応を検討する。

船橋市立金杉台中学校の今後を考える会

(案)

平成 30 年 7 月○日発行

考える会ニュース

NO.1

(事務局)

船橋市教育委員会 教育総務課企画係

〒273-8501 船橋市湊町 2-10-25

TEL: 047-436-2802 FAX: 047-436-2808

MAIL: kyosomu@city.funabashi.lg.jp

【『考える会』とは？～開催までの経緯～】

教育委員会では、「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針(※)」に基づき、適正な学校規模による望ましい学校配置の実現に取り組んできました。

金杉台中学校は平成 21 年度に全学年 1 学級となったことから、選択できる地域を拡大しました。一部の学年で 2 学級となることもありましたが、平成 26 年度以降全学年 1 学級であり、今後の推計においてもその状況は続くと思われています。

また、生徒数が少ない学年もあることから、教育活動の充実のため、適正規模化に向けた計画的な対応策についての検討を開始することとしました。

まず、地域の方々、保護者の方々など学校関係者の皆様の認識を把握するため、金杉台中学校、金杉台小学校の学校評議員、PTA 役員からそれぞれご意見を伺いました。

これらのご意見を踏まえ、子供たちにとって望ましい教育環境を整えることを第一に考え、地域・保護者の方々と丁寧に検討を進めていくこととなりました。

そこで、金杉台中学校の現状について広く学校関係者の方々と、課題について共通認識を図り、今後のあり方について検討を進めるため、『考える会』を開催し意見交換することとしました。

(※) 「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」市ホームページアドレス

<http://www.city.funabashi.lg.jp/kodomo/keikaku/002/p055056.html>

【第 1 回船橋市立金杉台中学校の今後を考える会の報告】

平成 30 年 2 月 9 日 (金) 金杉台小学校にて開催

<考える会の出席者>

金杉台中学校及び金杉台小学校の学校関係者として、両校の校長、学校評議員と PTA 役員の代表、教育委員会事務局から管理部長、教育総務課長、学務課長が一堂に会し、意見交換を行いました。

<会議内容>

(1) 金杉台中学校の現状及び今後について

学校規模の適正化という観点から、このままの学級数・生徒数で維持していくのではなく、学区変更や統合などを検討する必要性について、事務局から説明しました。

表:金杉台中学校の現状の生徒数及び今後の推計

年度	1年		2年		3年		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
30	1	23	1	15	1	21	3	59
31	1	21	1	23	1	15	3	59
32	1	15	1	21	1	23	3	59
33	1	23	1	15	1	21	3	59
34	1	19	1	23	1	15	3	57
35	1	16	1	19	1	23	3	58
36	1	17	1	16	1	19	3	52

※平成30年度は5月1日時点の実数。他は各年度5月1日時点の推計値。

※会議の際は平成 29 年度作成の推計を使用しました

(案)

(2) 意見交換等

それぞれの立場から、子供たちのことを考えた様々な意見が出されました。出された意見の一部をご紹介します。

金杉台中の現状に関して

- ・小規模校の良さや少人数のメリットを感じて金杉台中に入る子もいる
- ・一部の部活動では人数が少ないため、他の学校との練習や合同チームで試合に出ることがある

注！ご意見をいただいた段階であり、まだ何も決定していません。

今後に関して ①学区

- ・金杉台中の選択学区を拡大できないか
- ・選択学区をなくし、金杉台中の学区を固定してほしい
- ・周辺で宅地が増えているので、新しい世帯は金杉台中の学区とすれば生徒が増えるのではないか
- ・同じ金杉台小の児童で、中学校を選択できる地域と、できない地域があることに反対

今後に関して ②小中一貫校

- ・小中一貫校等で学校の魅力を高めたらどうか

その他

- ・学校には教職員・児童生徒がいるので、いざというときに避難所として役に立つ
- ・統合となった場合、跡地をどうするかについて、地域の実情に応じて検討してほしい

今後に関して ③統合

- ・市の基本方針をもとに考えていくと、統合という方向性は理解できる
- ・小規模校の良さを活かしながら存続させたいので、統合には反対
- ・中学校はなくなってほしくないが、学級数が多いほうが友達もたくさんでき、子供たちにとって良いのではないか
- ・金杉台中を希望する人もいるので、できることならば残してほしいが、予算などいろいろな理由で無理だというのであればやむを得ない

上記のほか、今の金杉台中学校の小規模校としての良さを評価する意見とともに、学区変更や統合による適正規模化を検討する必要性に理解を示す意見もありました。義務教育制度（6・3制）といった大きな枠組みについての意見もありました。

また、考える会としての検討事項の範囲など、考える会のあり方についての質問もあり、事務局において1回目の意見交換で挙げた質疑を整理し、2回目の考える会を開くことになりました。

◆ご意見、ご感想は表面の事務局までお寄せください。お待ちしております。◆

(5) 御滝中学校評議員との意見交換の報告

- (標題) 金杉台中学校の現状についての御滝中学校評議員との意見交換会
(日時) 平成30年2月13日(火) 15時20分～16時20分
(場所) 御滝中学校会議室
(出席者) 御滝中学校 学校評議員 3人

目的

- ・金杉台中学校の現状と、金杉台小・中学校の関係者(学校評議員・PTA 代表者)による考える会開催までの経緯を説明し、御滝中学校評議員の意見を伺う。

主な意見

- ・集団生活を送るうえで、やはり部活やクラブといった活動は多い中でやる方がいいと思う。
- ・運動会を金杉台小と一緒にやっているなど、知恵を出してやっていると思った。
- ・金杉台中はクラス替えが1回もない。クラス替えはあった方がいいのでは。進級して新しい風が吹くというのが必要かと思う。
- ・部活で集めるなど対応策を進めて金杉台中の生徒が増えると、小規模校の良さがなくなってしまう。小規模校を希望する子供たちはつらいのでは。自由に選択権を与えるのがよいのではないか。
- ・これまで金杉台中がなくなるというわさは何度か聞いた。
- ・(御滝中と金杉台中との選択学区を金杉台中の学区にする)学区変更という発想はなかった。
- ・金杉台中学区に住んでいるわけではないので無責任に聞こえるかもしれないが、いずれ統合するなら、その方向か。長く住んでいる人はさびしいと思うが。

2. 小中一貫教育について

◇船橋市におけるこれまでの研究の経過

平成 17 年度に小中連携プロジェクトがスタートし、若松小・中学校、豊富小・中学校、小室小・中学校の一小一中の小・中学校で研究が始まりました。

その後、金杉台小・中学校、飯山満南小・飯山満中学校も研究対象校となり、金杉台小・中学校では、平成 20 年度から 24 年度の 5 年間において、小中連携教育の研究を行いました。

平成 24 年度に、小中連携教育・一貫教育推進委員会により、研究報告書がまとめられました。

研究報告では、船橋市においては、小中一貫教育校(いわゆる現在の「義務教育学校」に近い)ではなく、現在の学校のまま小中の「連携教育」又は「一貫教育」を進めていくと結論付けています。一小一中の地域では小中一貫教育を、金杉台小・中学校のような学区が複雑な地域では、小中連携教育を進めるものです。

◇金杉台小・中学校における「小中一貫教育」、「小中一貫教育校」について

一小一中の学区ではない金杉台小・中学校では、「小中一貫教育」及び「小中一貫教育校」(≒義務教育学校)は困難です。

仮に、それぞれの学校に校長がいるような、小・中学校の施設を一体化することができないか、検証しましたが、現在の金杉台小学校の校舎に金杉台中学校の機能に移しきれず、かえって教育環境が悪化するため施設面でも困難です。

3. 学区に関する具体的な方策の検討について

金杉台中学校の学校規模を適正化するため、学区による対応策を下記の通り検証しました。

①第1回考える会資料にて提示した、御滝中学校との選択地域の一部を金杉台中学校の指定学区にする変更案【資料2】P.6~7（参考1）

⇒一時的に全校6学級となりますが、将来的に全校3学級となります。

②金杉台中学校からの距離を考慮し、御滝中学校との選択地域の一部と旭中学校の通学区域の一部を、金杉台中学校の指定学区にする変更案

【資料2】P.8~9（参考2）

⇒一時的に全校6学級となりますが、将来的に全校3学級となります。

課題 旭中の学区のうち、金杉台中に近い地域に限られ、生徒数の増加が限定的です。

③御滝中学校の通学区域全体を御滝中・金杉台中の選択地域にする変更案

【資料2】P.10~11（参考3）

⇒一時的に全校6学級となりますが、将来的に全校3学級となります。

課題1 御滝中と金杉台中の選択地域では、これまで約10%が金杉台中を選択していることから、御滝中の指定学区を選択地域にする場合の金杉台中選択率を10%と仮定しています。金杉台中学校から距離が遠い地域の選択率はほぼ0%となっている実情を考えると、推計より下回る可能性があります。

課題2 選択地域の拡大によって、仮に一方の学校へ入学者が偏るなど、急激な学級数の増減に対し、安定的な教育環境の提供（施設環境・教職員数）に支障をきたすおそれがあります。

④金杉台小学校の指定学区全体を金杉台中学校の指定学区にする変更案

【資料2】P.12~13（参考4）

⇒一部の学年でクラス替えができない状況が続き、将来的に全校3学級となります。

課題1 金杉台中の開校時から選択地域を設定している地域を、金杉台中の指定学区にするため、御滝中に近い地域の生徒に通学距離が増す負担を強いることとなります。

課題2 平成30年度から二和小周辺の学区変更の対象となった地域を含むので、経過措置としての配慮が必要となります。